

国語

<全体分析>

解答時間	50分	問題数	31問
------	-----	-----	-----

・構成・分量・難易度の変化 (前年対比)			
(1) 構成	大問	5	問構成
(2) 分量		変化なし	← 減少・やや減少・変化なし・やや増加・増加
(3) 難易		変化なし	← 易化・やや易化・変化なし・やや難化・難化

・全体を通しての特徴・傾向・注意点など

大問構成や出題の順番は、4年連続で変化なし。配点に関しては、昨年度と同一。出題様式に関して、第一～三問は昨年度とほぼ同一であったが、第四問において、共通・特色選抜がスタートしてから初めて漢文が出題された。漢文は、前期選抜では2019年度以来、後期選抜では2016年度以来の出題となった。また、第五問において、2018年度ぶりに詩歌が題材となった。俳句中に用いる言葉を選択し、その表現の意図の説明を求められていた。

<大問分析>

大問	出題分野・テーマ	設問内容・特徴・解答の注意点など	小問数	配点
第一問	国語知識・対話文	漢字の読み書きは昨年度と同一の構成。問三では否定の接頭辞が問われた。問四において「話し方」に関する問い。問四(五)は難易度は高い。「『シュウカン』と読む熟語が2つあり」、「音読みは放送に不適である」ことに気づけるか。	14	30
第二問	文学的文章	ダイアログが多く読みやすい。書き抜き問題・択一式の問題は難易度は低い。記述式の問題に関しても部分点は狙いやすい。問四は主人公の気持ちを問うているが、丸かっこで書かれたモノローグにより方針は定めやすかったはずだ。	6	20
第三問	説明的文章	読書を題材とする。傍線部の理由や内容を問うており従来の形式と大きな違いはない。50字以上の記述は問五で要求されたが、ここ10年間では初めて「筆者が最も主張したいこと」がストレートに問われた。	6	20
第四問	漢文	久しぶりの漢文の出題となったが、書き下し文にはほぼ現代語訳がついており、本文の読解そのものが難解であるわけではない。昨年度に引き続き、上位層であれば十分に満点を狙える難易度。	4	10
第五問	作文	指定字数は例年通り160字以上200字以内である。「見渡せば春の訪れ□にある」という創作俳句に、「ここ・そこ・どこ」のいずれかの指示語を入れ、表現できる情景や心情を述べさせる問題。理由や経験を盛り込むことは必須でない。	1	20

<学習対策>

記述問題以外でいかに失点を抑えるかがカギ。記述問題でも今年度は解答の根拠を見つけやすく、「型」を練習してきた受験生ならば十分に対応できるはずだ。また、古典や作文は多様に問題されることをふまえ、①過去問を5年分以上は解く ②他の都道府県の問題にも触れる 以上2つを推奨。過去問で体裁に目を慣らしつつ近年の傾向を掴み、他の都道府県の問題に多く触れ「動じない」姿勢を作っていくべき。

数学

＜全体分析＞

解答時間	50分	問題数	25問
------	-----	-----	-----

・構成・分量・難易度の変化 (前年対比)			
(1) 構成	大問	4	問構成
(2) 分量		変化なし	← 減少・やや減少・変化なし・やや増加・増加
(3) 難易		易化	← 易化・やや易化・変化なし・やや難化・難化

・全体を通しての特徴・傾向・注意点など

大問構成は例年通りの四問構成で変更なし。配点についても例年とほとんど変化は見られなかった。昨年度と比べ、第二問の配点に変化が見られた。難易度は教科書と同程度であったが、8問中4問が5点配点になっており、基礎的な内容をしっかりと取りきることが重要であった。また、例年第三問は関数やその他の分野の融合問題で構成されていたが、今回は第三問中に確率が独立して出題されており、関数の出題量は少なくなった。図形の問題も基本的なものが出題されており、全体として昨年の極めて易しかった難易度よりもさらに易しくなった。

＜大問分析＞

大問	出題分野・テーマ	設問内容・特徴・解答の注意点など	小問数	配点
1	小問集合	例年通りの小問集合問題。第一問でも差がつく問題が出題される傾向があるが、今年度はどれも難度は低めであるので、確実に正答したい。	8	26
2	2乗に比例する関数 空間図形 方程式の利用 資料の整理	どの問題も基本的な内容であった。4で出題された資料の整理で累積相対度数に触れているが、難易度は高くない。第一問と合わせて、全問正解したい。	8	32
3	確率 1次関数の利用	例年第三問には1次関数を主とした分野融合問題が出題されるが、今年度は確率が出題されているものの1次関数との融合はなく、全部で12通りしかない状況なので、すべて数え上げれば正解できる極めて易しい問題だった。1次関数についてもグラフをかき上げて交点を求めると言った、基本内容であった。	5	21
4	平面図形	昨年は三平方の定理が出題範囲から除外されたが、今年度は円、相似、三平方の定理が融合された問題が出題された。最終問題も手数は必要になるものの、過去5年の入試問題の中では易しい分類であった。	4	21

＜学習対策＞

入試で点数を取るためには、第一問と第二問での小問集合や分野別の問題で点数を確実に取ること、第三問では条件設定を素早く正確に読み解く文章読解力が必要となる。第四問で出題される図形は平面図形が出題され続けているが、最終問題は例年難度が極めて高い。教科書の復習だけで高得点をとることは難しいので、合格点を取るためには、第一問、第二問を素早く解ききり、文章読解に時間が必要な第三問と思考力が必要な第四問に時間をかけられるように時間配分を意識して問題に取り組むようにしよう。

社会

ひのき進学グループ 二高一高必勝館・ひのき進学教室・ひのき個別館

令和4年度 宮城県公立高等学校 入学者選抜学力検査分析

＜全体分析＞

解答時間

50分

問題数

30問

・構成・分量・難易度の変化 (前年対比)

(1) 構成	大問	6	問構成
(2) 分量		変化なし	← 減少・やや減少・変化なし・やや増加・増加
(3) 難易		やや易化	← 易化・やや易化・変化なし・やや難化・難化

・全体を通しての特徴・傾向・注意点など

大問が5題から6題構成になった。また、昨年度出題されなかった中学3年生の終盤で習う経済分野と国際社会の単元からも出題された。記述問題は例年通り5問で、いずれも資料を読解しそれに沿って書くものになっている。記述に関しては、昨年度や一昨年度の過去問を解いていれば対応しやすい。

＜大問分析＞

大問	出題分野・テーマ	設問内容・特徴・解答の注意点など	小問数	配点
1	歴史と公民・民主政治の成り立ち	今年度追加された問題。すべて記号問題であり、難易度は高くない。	5	15
2	地理・九州地方の農業	例年の第二問にあたる地理分野の問題である。記述問題は、近年、日本の農業が直面している課題に関するものであり、昨年度の第四問の記述と傾向が似ている。	5	17
3	歴史・みそとしょうゆの歴史	時期と事柄をセットで覚えているかどうかを試される問題が多い。記述問題は、江戸時代における水上輸送についての問題で、出題意図をくむのがやや難しい。	5	17
4	公民・科学技術の発展と社会の変化	記号問題や用語を書く問題は標準レベルだが、記述で参照しなければならない資料が3つあり、必要な事柄をきれなく書くのは難しかったと思われる。	5	17
5	3分野融合・南アメリカ州の人々の生活と文化	雨温図の選択等、頻出問題が並んだ。記述は、ブラジルの民族構成の背景にある歴史を、資料をもとにまとめるもので、完璧に書くには深い知識が必要になる問題である。	5	17
6	歴史と公民・国際問題と日本の国際貢献	近年の社会情勢への関心が問われる大問。記述問題は、1度に2つのことを答えなければならない問題であり、国際貢献についての知識と記述力が試される問題であった。	5	17

＜学習対策＞

例年通り記述問題の難易度が高い。まずは教科書をよく読んで理解し、記述のベースとなる知識を身につける必要がある。そのうえで、過去問演習で複数の資料をもとに記述する力をつけるとよい。また、記号問題で失点しないように、地理は用語だけでなく「位置」を、歴史は「事柄」と「時」をセットで覚えるべきである。

<全体分析>

解答時間	50分	問題数	30問
------	-----	-----	-----

・構成・分量・難易度の変化 (前年対比)

(1) 構成	大問 5	問構成
(2) 分量	やや減少	← 減少・やや減少・変化なし・やや増加・増加
(3) 難易	易化	← 易化・やや易化・変化なし・やや難化・難化

・全体を通しての特徴・傾向・注意点など

昨年度の出題形式を踏襲する問題構成であり、大きな変化は全くなかった。新出単元の仮定法や原型不定詞に関する出題はなかった。第四問の長文読解は昨年度同様ディベート形式のものだったが全体の文章量が減っており昨年度よりも解きやすくなっている。全体を通して解きやすい問題が多いので、平均点は昨年度よりも高くなることが予想される。また、例年同様、教科書の隅々まで単語や熟語の学習をする必要がある。

<大問分析>

大問	出題分野・テーマ	設問内容・特徴・解答の注意点など	小問数	配点
1	リスニング	出題形式は例年通り。問題4の記述は3年連続「会話の流れに沿うもの」であった。テーマとして「明日雨なので家で何を予定か」という問いに答えるもので、I'm going to～.(I will～.)を用いて且つ「家で行えること」を書く。	8	25
2	文法	昨年よりも易しい。be late for～や take care of～等、例年通り熟語の知識を問う選択・記述問題が出された。上位校を受験する生徒であれば全問正解は必須である。	7	20
3	長文読解① スピーチ文	昨年度より分量がやや減少し、難易度が下がった。比較的時間を要するであろう本文からの抜き出しの問題が1問減ったこと、日本語で答える問題の解答箇所がすぐ近くにあったこと等非常に解きやすいものであった。	5	18
4	長文読解② ディベート	昨年同様抜き出しではなく各話者の意見の要約に近い問題が出されたが、ディベートの人数が昨年度の4人から3人に減り、総合的な文章量が減ったため解答箇所を絞りやすくなった。	8	26
5	英作文	会話文から「パーティーで交換留学生のアリスのために何をしたいか」という問いに3文以上の英語で答える。会話の中で、「アリスは日本の文化に興味を持っている」の述べられており、それを踏まえた内容で書きたい。	2	11

<学習対策>

今年度は教科書改訂により単語・連語・文法の学習量が大幅に増えたが、入試の問題にはほぼ影響がなかった。次年度は本格的にその影響が出ることが予想される。まず土台となる教科書の英単語・連語・文法を1年生内容から限なく確認すること。そのうえで長文問題に対して早い段階で慣れておきたい。英作文についても、使える表現や文法事項の引き出しの数を多く持つことが重要である。そのため、多くの問題をこなし添削をしてもらうようにしよう。

理科

ひのき進学グループ 二高一高必勝館・ひのき進学教室・ひのき個別館

令和4年度 宮城県公立高等学校 入学者選抜学力検査分析

<全体分析>

解答時間

50分

問題数

32問

・構成・分量・難易度の変化 (前年対比)

(1) 構成	大問	5	問構成
(2) 分量		変化なし	← 減少・やや減少・変化なし・やや増加・増加
(3) 難易		やや易化	← 易化・やや易化・変化なし・やや難化・難化

・全体を通しての特徴・傾向・注意点など

記述問題が5題→4題に減少したうえ、文章量が大きく減少した。
 数値を答える問題は4題のまま変化なしだが難易度の高い出題が減少した。
 単語や単問の出題も平易なものも多く非常に解きやすかった。

<大問分析>

大問	出題分野・テーマ	設問内容・特徴・解答の注意点など	小問数	配点
1	小問集合	「伊豆大島」や「ダニエル電池」など、教科書には載っているが言葉だけ見ると気圧されてしまうようなものもあったが、その実他の部分をきちんと読めば不要なヒントであったので冷静に他のヒントを見ることが大変重要。	12	36
2	植物のからだのつくりとはたらき	実験の内容としては単純だが、仮説を立ててその場合の結果を予想するという形式の出題があり、内容の正しい理解が求められるものであった。	5	16
3	地球の運動と天体の動き	南中時刻の計算や南中高度など考え方がきちんと把握できていないと対応しづらい出題が並んでいた。地軸の傾きによるずれなど、どういう理由でどういう現象が起こっているかなどきちんと把握する必要があった。	5	16
4	力のはたらき方	途中までは非常に基本的な内容で即答できるものが多く並んでいた。最後の計算問題はそもそも問題の設定の把握が難しいという生徒は多くいたのではないだろうか。状況を正しく把握できていれば計算自体はそこまで難易度の高いものではなかった。	5	16
5	酸・アルカリとイオン	典型的な中和の問題。過不足のある化学反応の非常に出題率が高いので対策をきちんとしている生徒にとってはやりやすい問題だったのではないだろうか。最終問題はどちらが余るのかがわかれば非常に平易な計算であった。	5	16

<学習対策>

例年と比べて記述や計算の負荷が減少したのに対して、どうしてそうなるのか、といった現象の根拠を正しく理解し、仮説を立てた際にどういう結果が想定されるか、という出題が多く見られた。表面の暗記だけでなく、この理由でこういう現象が起こるといところまでしっかりと暗記をして試験に臨むことが必要となる。